

100周年を迎える応用生物科学部

応用生物科学部 学部長 光永 徹



新型コロナウイルスの影響も昨年や一昨年に比べ影を潜め、徐々に以前の生活が戻りつつありますが、各務同窓会会員の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げますとともに、平素は同窓会活動に對しまして格別のご高配を賜り、深く感謝申し上げます。

さて私こと、学部長3年目を迎えています。これまで以上に学部執行部の先生方や事務の方々に支えられ、学部教職員のたゆまない活動支援のご協力を受けて、学部の教育・研究の発展に邁進しているところであります。

皆様ご承知のように、岐阜大学応用生物科学部は来年2023年をもちまして創立100周年の記念すべき年を迎えます。前身である岐阜高等農林学校が1923年12月に管制公布され、翌24年4月に各務原市（旧稲葉郡那加村）に開設されました。1982年には現在の岐阜市柳戸地区に移転し、2004年4月に岐阜大学の法人化と同時に応用生物科学部として新たな歩みをはじめました。そして2020年

4月に全国で初めての法人統合により、名古屋大学との間で東海国立大学機構が設置され、東海機構に属する岐阜大学応用生物科学部となり現在に至っております。少子高齢化社会そして脱炭素化社会と大学にとっても大変厳しい時代を迎えています。本学部は高校生からの人気も高く、また地域からの期待も大きいことから、地域に貢献し世界に通用する中核大学としての存在感を持って光り輝くことができている。これもひとえに、同窓生の皆様のご活躍の賜物と深く感謝申し上げます。次第です。記念すべき100周年を機に、農学部から応用生物科学部へと歩んできた道を振り返り、さらなる前進と飛躍を期し、同窓生の皆様と喜びを分かち合うため、来年2023年6月3日に創立100周年記念事業を実施することとしています。記念式典・祝賀会の開催や記念誌の発行、同窓会活動活性化事業などを計画しています。これらの記念事業を遂行するためには皆様からのご寄付に依存しなければなりません。何卒、諸事情ご賢察い

ただき温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

文部科学省は各国立大学に対し、高等教育の機会均等を確保し、地方創生の中核として社会を牽引する人材を育成・輩出するとともに、それぞれの強み・特色を活かしつつ、地域や産業界とも連携して多様な社会課題に最前線で向き合い、地域・国・世界に貢献するための取り組みを期待しています。

今年度から6年間に渡る、第4期中期目標・中期計画期間に多様な「学術知」や「知の資産」を結集し提供すること、災害やコロナウイルス感染症等にも対応し得る、持続可能な社会の構築を実現すべく、これまで以上の貢献が求められます。応用生物科学部では、「自ら学ぶ」姿勢を涵養し、高い倫理観とともに課題を探索し解決しうる能力をもった高度な専門職業人を養成するための教育プログラムを計画しています。例えば名古屋大学との連携により、数理・データサイエンス・AI教育、実践的な英語教育、リベラル・アーツ教育、共通専門プログラムなどの充実と重点的に取り組みたいと考えています。また研究の面では、被引用度の高いジャーナル論文の増加を目指すとともに、世界トップレベルの研究成果を得ることが期待できる研究センター群として名古屋大学との協働により、糖鎖生命コア研究所の機能強化に貢献したいと考えます。今年度の6月から留学生や海外研究者を受け入れるための

規制緩和が実施され、また以前のよう

にジョイント・ディグリー・プログラム（JD）はじめ地域に根ざした国際教育研究活動により、グローバル化を実行してまいります。さらに地域社会貢献では自治体、地元企業等との連携・協働をさらに深め、地域課題の解決をはじめ、教育、行政サービス等の向上による地域のブランド力（飛騨牛繁殖研修センター）の増進や産業の競争力向上に資する教育研究活動を推進するとともに、大学発ベンチャーの創出や産学協働拠点の形成を通じて、研究成果の社会実装による新たな価値を創造します。

本年6月をもちまして、3年以上に及んだ応用生物科学部校舎の大改修工事が終了いたしました。以前の自治会学生との懇談会では、応用生物科学部の校舎の印象として、暗い、臭い、寒いなどで形容されていました。校舎は、明るく、奇麗で、学習しやすい校舎に生まれ変わりました。是非、講義室や新しくなったご出身の研究室を一度お尋ねいただき、現教員や学生達と懇談していただければ幸いです。

このように応用生物科学部は、高まりつつある新しい「農学」への期待と重要性をこの東海地域から「農学教育研究拠点」として発展させ牽引していく所存であります。今後とも同窓生の皆様からの温かいご支援とご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

各務同窓会報



岐阜大学

九十九周年
ご挨拶

各務同窓会会長

柵木

利昭（V大16）



各務同窓会

の皆様にはコ

ロナ下三年目

如何お過ごし

でしょうか。平素から各務同窓会の発展にご尽力いただき誠に有難うございます。

第一次世界大戦が終結しスペイン風邪が終息した世界情勢の下、九十九年前の関東大震災の直後の大正十二年我等が母校の岐阜大学農学部・応用生物科学部の前身である官立岐阜高等農林学校（その後岐阜農林専門学校に改称）は各務野の水無しガ原に創立された。明治維新から七十七年目の昭和二十年太平洋戦争敗戦の年から七十七年目の今年我々が母校は創立九十九周年を迎えた。高農時代は戦争の影響を強く受けたが、戦争放棄を宣言した平和国家の下で名古屋帝大と岐阜高農との合併問題がGHQと吉田茂首相の調停で幻として終わり、昭和二十四年には岐阜農林専門学校は学制改革で新制の国立岐阜大学の創立に参画し農学部となった。日本はこの時代特に昭和二十二年から二十四年に毎年二百七十七万人生まれた団塊の世代から始まり

人口増、安保闘争や学生運動を乗り越え、高度経済成長と右肩上がりの

中昭和五十七年各務ヶ原を離れ、タ

コ足大学解消ため農学部も岐阜市の

新キャンパスへ全学統合移転した。

農学部発展を基盤に金城学部長の指

導の下平成二年に連合獣医学研究所

翌年には連合農学研究科の設置校に

選出された。経済は安定成長そして

九十年代前半のバブル経済とその崩

壊後の日本経済低迷、歯止めのかか

らない少子高齢化、農学部志願者数

減などを背景に平成十五年国立岐阜

大学が国立大学法人岐阜大学になる

と同時に農学部は応用生物科学部

（食品生命科学課程、生産環境科学

課程及び獣医学課程の三課程六コー

ス）に改組された。さらに新型コロ

ナウイルスのパンデミックが始まっ

た令和二年国立大学法人岐阜大学は

名古屋大学と経営統合し、国立大学

法人東海国立大学機構岐阜大学と

なった。この機構で両大学はそれぞ

れの特徴ある分野を生かして世界に

通用する例えば岐阜大学では応用生

物科学部の隣接地に糖鎖生命コア研

究所の建設など研究拠点を創り発展

させていく道を選んだ。

今年初頭からオミクロン株が猛威

を振るう中二月二十四日もやの口

シア軍のウクライナへの侵攻そして

六月二十四日には四か月となり、毎

日その痛ましい映像を見ていると、

七十七年前三か月に及んだ沖縄戦が

六月二十三日二十万人を超える戦死

者（半数以上は島民）を出して終結

した事と思い重なる。三年に及ぶコ

ロナや終息の兆しの見えないロシア

のウクライナ侵攻など、戦後七十七

年何の備えもなくただ安眠をむさ

ぼって来た日本にとって青天の霹靂

とも言わべき事態が立て続けに起

こった。コロナの第六波もやや下火

になり三年ぶりに六月四日やつと各

務同窓会の代表者委員会が懇親会抜

きながら開催された。来年六月三日

には農学部・応用生物科学部百周年

を共に盛大に祝い、次なる七十七年

の我等が多望の春を語り合いまし

う。

幹事長からの
ご挨拶

幹事長 鈴木 正嗣



時下、ます

ますご清祥の

こととお慶び

申し上げます。

昨年度に引き続き幹事長を務めさせていたくことになりました。今年

度は、「岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念事業」の

準備の正念場となる年であり、改め

て身の引き締まる思いでおります。

つきましては、これまでと同様、ご

助言・ご指導のほど、どうかよろし

くお願いいたします。

昨年度は、コロナ禍のおおきくを受

け9月に予定されていた役員会なら

びに10月へ延期させていただいた代

表委員会なども中止とさせていただ

きました。同様に、会合等を中止さ

れた支部会もございます。しかし、

今年度に入ってから学内諸行事の

正常化が進み、代表委員会につきま

しても予定通り6月4日に実施する

ことができ、支部総会開催の情報も

いただいております。一方、本稿執

筆時には感染者数の増加が報じられ

始めました。第7波を懸念する声も

聞かれ、まだまだ予断を許さない状

況と認識しているところです。

さて、本会報23ページならびに

ウェブサイト (<http://www.abios.gifu-u.ac.jp/100anniversary/>) に掲

載のとおり、来年度の創立100周年

記念事業は6月3日（土）に開催

されます。記念式典や講演会、祝賀

会、記念誌等の準備を着々と進めら

れており、皆様のご参加を心よりお

待ち申し上げます。また、本記念事

業への寄附ならびに法人におかれま

しては協賛につきましても、ご検討

をいただければ幸いです。

加えて、支部ならびにクラス・研

究室・クラブ等OB会への支援を行

う「各務同窓会活動活性化支援事

業」も実施されております（本会報

23ページならびに<http://www.abios.gifu-u.ac.jp/kagami/activation.html>

をご参照ください）。この事業は、

支部等における会員の減少や高齢化

を受けて創設されたもので、新規会

員を増加させるための取り組み等を

進める支部等をサポートするもので

す。近年の若者気質やさまざまな社

会情勢の変化にともない、入会者数

も低迷している中、同窓会としても

新たな取り組みやアイデアが欠かせ

ません。つきましては、積極的な応

募をお願い申し上げます。

なお、昨年度の会報でお伝えした

「同窓会書庫の移動と整理」につ

きましては、諸作業が完了し皆様にご

覧いただける状況となりました。見

学や閲覧のご希望がある場合には、

各支部で取りまとめたいただき同窓会

事務局まで電話もしくははメールにて

お申し込みください。

末筆ではございますが、皆様のま

ますのご健勝とご活躍をお祈り申

し上げます。

令和4年度各務同窓会代表委員会のご報告

標記の代表委員会が令和4年6月4日午後3時から、岐阜駅前の岐阜大学サテライトキャンパスで開催されました。本委員会は、コロナ禍の影響で令和2年度と3年度は書面審議で行われましたので、対面形式での開催は3年ぶりとなりました。しかしながら、通常は代表委員会に続いて開催される交流会につきましては、感染拡大防止のため今年度は断念致しました。誠に残念です。会議だけの開催となったため、午後3時の開始とし、また場所を普段は講義が行われている岐阜大学のサテライトキャンパスといたしました。このような状況にもかかわらず、北は北海道、岩手から、南は広島、徳島鳴門支部まで合計22支部のご参加を頂きました。改めて御礼申し上げます。

柵木利昭会長の挨拶の後、幹事長と幹事（監事を含む）の紹介がありました。その後、鈴木正嗣幹事長が挨拶されました。続いて岐阜支部河原洋之氏を議長として選出し、議事を進めて頂きました。令和4年度岐阜大学各務同窓会役員案を承認したのち、令和3年度事業・決算報告及び会計監査報告について、鈴木幹事長から事業報告、前田前会計幹事から決算報告、石田幹事から監査報告が行われ、拍手を以て承認されました。引き続き令和4年度事業計画（案）について鈴木幹事長から、令和4年度予算（案）について浅野会計幹事から提案されました。神奈川支部、千葉支部、徳島支部から質問があり、質疑の後、挙手にて提案が承認されました。活発な議論有難うございました。続いて平工孝義副会長（100周年記念事業事務局）から、100周年記念事業の進捗状況について報告がありました。その折に、クニハガーデンで開催された那加キャンパスのお別れ会の様子、また岐阜放送が保有している大学祭の神輿行列の映像が紹介されました。これらの映像は、100周年記念DVDに編集する予定にしております。

その他の議案として、寄付金決算及び同窓会会計、同窓会書庫について鈴木幹事長から報告されました。同窓会書庫には、各研究室から移した卒業論文や修士論文が保管されていますので、ご興味のある方は同窓会事務局までお問い合わせください。また、鈴木幹事長から、現在、審議が進められている岐阜大学校友会の設置について説明があり、各務同窓会との関係などについて質疑がありました。最後に光永徹名誉会長（応用生物科学部長）からご挨拶を頂き、代表委員会を無事に終えることができました。残念ながら交流会は開催できませんでしたが、その代わりに岐阜大学オリジナルの日本酒（岐山と曲阜）をお持ち帰り頂きました。また、光永学部長からは、岐阜大学オリジナルのクラフトビールの開発も進めているとご案内がありました。どうぞ、ご期待ください。

来年6月にはいよいよ100周年を迎えます。引き続き同窓会活動にご協力のほど、宜しくお願い致します。

なお、同窓会事務局へご質問・ご連絡がございましたら、058-293-3411かob-abs@gifu-u.ac.jpまでお声がけください。



令和4年度岐阜大学各務同窓会役員

名 誉 会 長	光 永 徹	
会 長	柵 木 利 昭	(V大16)
副 会 長	箕 輪 光 顕	(A大20)
	平 工 孝 義	(A大25)
	荻 巢 雅 俊	(F大31)
	伏 見 知 彦	(C大18)
	北 川 精 一	(V大18)
	村 山 巖	(E大23)
	川 島 光 夫	(P大 7)
相 談 役	杉 山 幹 夫	(M 1)
	新 藤 秀 逸	(SP21)
	中 村 孝 雄	(N大 7)
	後 藤 悦 男	(V大 2)
	水 野 隼 人	(C大15)

令和4年度幹事長、幹事及び監事

幹事長	鈴木 正嗣	(共同獣医学科)
幹 事	(庶務・幹事長代理) 嶋津 光鑑	(生産環境科学課程)
	(事業) 石田 秀治	(応用生命科学課程)
	(会計) 浅野 玄	(共同獣医学科)
監 事	前田 貞俊	(共同獣医学科)
	只野 亮	(生産環境科学課程)

令和3年度 支部総会開催状況

富山県支部	5月22日開催 向井先生が参加予定でしたが、岐阜県にまん延防止等重点措置が発令された為、参加辞退
岐阜支部	9月26日開催予定 8月末中止の連絡

各務同窓会報

令和3年度各務同窓会決算報告

自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	今年度予算	決 算 額	比較増△減額
1. 会 費	2,515,000	1,484,500	△ 1,030,500
入 会 金	2,460,000	1,380,000	△ 1,080,000
年 会 費	55,000	104,500	49,500
2. 利 子	25	20	△ 5
3. 雑 収 入	600,000	564,000	△ 36,000
4. 基本金特別会計より繰り入れ	3,430,000	3,230,000	△ 200,000
当期 歳 入 合 計 (A)	6,545,025	5,278,520	△ 1,266,505
前年度繰越収支差額	1,262,571	1,262,571	0
歳 入 合 計 (B)	7,807,596	6,541,091	△ 1,266,505

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決 算 額	比較増△減額
1. 事 務 費	1,989,500	1,841,869	△ 147,631
消 耗 品 費	10,000	1,148	△ 8,852
人 件 費	1,800,000	1,709,000	△ 91,000
通 信 費	50,000	52,961	2,961
旅 費	26,000	17,000	△ 9,000
終身会費返金	100,000	60,000	△ 40,000
雑 費	3,500	1,760	△ 1,740
2. 会 議 費	1,153,000	719	△ 1,152,281
代表委員会費	350,000	0	△ 350,000
代表委員会旅費	800,000	0	△ 800,000
役 員 会 費	3,000	719	△ 2,281
3. 事 業 費	2,330,000	2,331,136	1,136
会 報 等 印 刷 費	600,000	600,000	0
会 報 郵 送 費	900,000	904,475	4,475
会 報 発 送 雑 費	780,000	796,161	16,161
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	40,000	20,500	△ 19,500
4. 名簿関係費	7,500	0	△ 7,500
発 送 費	7,500	0	△ 7,500
5. 慶 弔 費	50,000	0	△ 50,000
6. 支部総会派遣費	500,000	0	△ 500,000
7. 卒業・修了祝賀会 賛助費	150,000	0	△ 150,000
8. 予 備 費	70,000	19,000	△ 51,000
当期歳出合計(C)	6,250,000	4,192,724	△ 2,057,276
当期収支差額(A)-(C)	295,025	1,085,796	790,771
次期繰越収支差額(B)-(C)	1,557,596	2,348,367	790,771

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	今年度予算	決 算 額	比較増△減額
1. 終 身 会 費	4,970,000	2,760,000	△ 2,210,000
新 入 生 分	4,920,000	2,760,000	△ 2,160,000
卒 業 生 分	50,000	0	△ 50,000
2. 雑 収 入	0	0	0
3. 利 子	1,209	1,980	771
当期 歳 入 合 計 (A)	4,971,209	2,761,980	△ 2,209,229
前年度繰越収支差額	55,480,080	55,480,080	0
歳 入 合 計 (B)	60,451,289	58,242,060	△ 2,209,229

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決 算 額	比較増△減額
1. 一般会計への繰入	3,430,000	3,230,000	△ 200,000
2. 振 込 料	1,000	880	△ 120
当期歳出合計(C)	3,431,000	3,230,880	△ 200,120
当期収支差額(A)-(C)	1,540,209	△ 468,900	△ 2,009,109
次期繰越収支差額(B)-(C)	57,020,289	55,011,180	△ 2,009,109

3. 百周年記念事業会

(1) 歳入の部

(単位：円)

勘定項目	今年度予算	決 算 額	比較増△減額
1. 基本金特別会計より繰入	0	0	0
2. 利 子	44	35	△ 9
3. 募 金	1,000,000	161,000	△ 839,000
4. 雑 収 入	0	258,802	258,802
当期 歳 入 合 計 (A)	1,000,044	419,837	△ 580,207
前年度繰越収支差額	4,495,829	4,495,829	0
歳 入 合 計 (B)	5,495,873	4,915,666	△ 580,207

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	決 算 額	比較増△減額
1. 事 務 費	100,000	45,049	△ 54,951
2. 会 議 費	100,000	4,676	△ 95,324
3. 旅 費	120,000	13,542	△ 106,458
4. 事 業 費	100,000	360,250	260,250
5. 雑 費	50,000	13,370	△ 36,630
当期歳出合計(C)	470,000	436,887	△ 33,113
当期収支差額(A)-(C)	530,044	△ 17,050	△ 547,094
次期繰越収支差額(B)-(C)	5,025,873	4,478,779	△ 547,094

4. 資産現在高

(単位：円)

項 目	年度始現在高	現 在 高
1. 一般会計	1,262,571	2,348,367
2. 基本金特別会計	55,477,515	55,011,180
3. 百周年記念事業	4,495,829	4,478,779
合 計	61,235,915	61,838,326

5. 資産保管状況

(単位：円)

項 目	一般会計	基本金会計	百周年記念事業会
1. 現 金	8,496		
2. 普通預金			
大垣共立銀行		2,301,074	4,320,619
十六銀行		1,397,597	
三井住友信託銀行		3,572,549	
郵便局	38,797		
みずほ銀行		2,583,573	
3. 定期定額貯金		9,613,325	
大垣共立銀行		21,844,136	
十六銀行		16,000,000	
三井住友信託銀行			
4. 振替貯金	0	0	158,160
合 計	2,348,367	55,011,180	4,478,779
総 計		61,838,326	

令和4年度各務同窓会予算(案)

収支予算書 (令和4年4月1日～令和5年3月31日まで)

1. 一般会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	予 算 額	前年度予算額	差 異
1. 会 費	7,480,000	2,515,000	4,965,000
入 会 金	7,380,000	2,460,000	4,920,000
年 会 費	100,000	55,000	45,000
2. 利 子	74	25	49
3. 雑 収 入	600,000	600,000	0
4. 基本金特別会計より繰り入れ	1,000,000	3,430,000	△ 2,430,000
当期 歳 入 合 計 (A)	9,080,074	6,545,025	2,535,049
前年度繰越収支差額	2,348,367	1,262,571	1,085,796
歳 入 合 計 (B)	11,428,441	7,807,596	3,620,845

(2) 歳出の部

勘定項目	予 算 額	前年度予算額	差 異
1. 事 務 費	1,999,500	1,989,500	10,000
消 耗 品 費	10,000	10,000	0
人 件 費	1,800,000	1,800,000	0
通 信 費	60,000	50,000	10,000
旅 費	26,000	26,000	0
終身会費返金	100,000	100,000	0
雑 費	3,500	3,500	0
2. 会 議 費	853,000	1,153,000	△ 300,000
代表委員会費	50,000	350,000	△ 300,000
代表委員会旅費	800,000	800,000	0
役 員 会 費	3,000	3,000	0
3. 事 業 費	2,320,000	2,330,000	△ 10,000
会 報 等 印 刷 費	600,000	600,000	0
会 報 郵 送 費	900,000	900,000	0
会 報 発 送 雑 費	780,000	780,000	0
ホームページ管理費	10,000	10,000	0
同窓会長賞費	30,000	40,000	△ 10,000
4. 名簿関係費	7,500	7,500	0
発 送 費	7,500	7,500	0
5. 慶 弔 費	50,000	50,000	0
6. 支部総会派遣費	500,000	500,000	0
7. 卒業・修了祝賀会賛助費	150,000	150,000	0
8. 予 備 費	70,000	70,000	0
当期歳出合計(C)	5,950,000	6,250,000	△ 300,000
当期収支差額(A)-(C)	3,130,074	295,025	2,835,049
次期繰越収支差額(B)-(C)	5,478,441	1,557,596	3,920,845

2. 基本金特別会計

(1) 歳入の部

(単位：円、小文字は内訳)

勘定項目	予 算 額	前年度予算額	差 異
1. 終 身 会 費	0	4,970,000	△ 4,970,000
新 入 生 分	0	4,920,000	△ 4,920,000
卒 業 生 分	0	50,000	△ 50,000
2. 雑 収 入	0	0	0
3. 利 子	1,100	1,209	△ 109
当期 歳 入 合 計 (A)	1,100	4,971,209	△ 4,970,109
前年度繰越収支差額	55,011,180	55,480,080	△ 468,900
歳 入 合 計 (B)	55,012,280	60,451,289	△ 5,439,009

(2) 歳出の部

勘定項目	予 算 額	前年度予算額	差 異
1. 一般会計への繰入	1,000,000	3,430,000	△ 2,430,000
2. 振 込 料	0	1,000	△ 1,000
当期歳出合計(C)	1,000,000	3,431,000	△ 2,431,000
当期収支差額(A)-(C)	△ 998,900	1,540,209	△ 2,539,109
次期繰越収支差額(B)-(C)	54,012,280	57,020,289	△ 3,008,009

3. 百周年記念事業会

(1) 歳入の部

(単位：円)

勘定項目	今年度予算	前年度予算額	比較増△減額
1. 基本金特別会計より繰入	0	0	0
2. 利 子	44	44	0
3. 募 金	0	1,000,000	△ 1,000,000
当期 歳 入 合 計 (A)	44	1,000,044	△ 1,000,000
前年度繰越収支差額	4,478,779	4,495,829	△ 17,050
歳 入 合 計 (B)	4,478,823	5,495,873	△ 1,017,050

(2) 歳出の部

勘定項目	今年度予算	前年度予算額	比較増△減額
1. 事 務 費	100,000	100,000	0
2. 会 議 費	100,000	100,000	0
3. 旅 費	200,000	120,000	80,000
4. 事 業 費	400,000	100,000	300,000
5. 人 件 費	1,700,000	0	1,700,000
6. 雑 費	50,000	50,000	0
当期歳出合計(C)	2,550,000	470,000	2,080,000
当期収支差額(A)-(C)	△ 2,549,956	530,044	△ 3,080,000
次期繰越収支差額(B)-(C)	1,928,823	5,025,873	△ 3,097,050

岐阜大学基金特定事業

岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念事業寄附金額
(令和4年3月31日)

2,054,000円

今年度より会費3万円全額一般会計に組入

令和2年度岐阜大学の事業（新型コロナウイルス感染症緊急学生支援事業）に協力し、費用1,031,008円を一旦立替え、後に清算したことを報告します。
報告がもれていたことをお詫び致します。

学園だより

課程等の近況

◆応用生命科学課程

同窓生の皆様には、この大変な社会状況の中ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。本年度も光永徹教授が学部長（3年目）、また西津貴久教授が副学部長（筆頭）として学部の運営を担われますので、本課程は石田が課程長を務め、分子生命科学コース長の中川寅教授、食品生命科学コース長の矢部富雄教授のご協力を頂きながら本課程の発展に尽力したいと思っております。皆様のご指導を宜しくお願い申し上げます。

当課程は、本年3月に学部卒業生86名を送り出し、そのうち62名が大学院修士課程に進学しました。修士課程修了者は50名で、そのうち10名が岐阜大学連合農学研究科博士課程に進学しました。この4月には、本課程に87名の新入生及び5名の3年次編入学生を迎え入れました。

大学院修士課程には令和元年度秋季入学生2名を加えて72名が入学しています。

教員の動向をお知らせします。本年度は定年退職等の異動は予定されていませんでしたが、誠に残念なことに、本年1月1日にゲノム微生物学の鈴木徹教授が急逝されました。約30年間、いつも一緒にいた掛け替えのない仲間を失い、痛恨の極みです。また、原徹夫名誉教授が本年5月に逝去されたという訃報もありました。謹んで両先生のご冥福をお祈りします。

慶事としては、矢部富雄教授の令和3年度日本食物繊維学会賞の受賞と、加藤宏治名誉教授の令和4年春の叙勲（瑞宝中綬章）をご報告いたします。加藤先生の叙勲は、昨年の柘植先生について2年連続であり、両先生の教え子である小生として非常に嬉しく思います。また、学生さんたちの活躍もめざましく、合成生物学の国際的大会で

あるIGEMでの金賞受賞を始め、各学会において数多くの賞（数が多いため詳細は割愛）を受けております。

末筆乍ら、皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

（石田秀治）

◆生産環境科学課程

築後35年を経た校舎の改修も終わり、全ての研究室が改修後の建物に配置されました。新しい場所で、学生・教職員一同、新たな一歩を踏み出して行ける雰囲気を感じています。改修の過程では、同窓会・後援会からのご支援により学生居室、多目的室の備品等を整備させていただきました。生まれ変わった校舎に、ぜひ一度足を運んでいただければ幸いです。

本年は、環境生態科学コースの大西健夫教授（流域管理学研究室）、廣田勲准教授（地域資源生態学）が、4月に現職に昇任されました。益々のご活躍を期待しております。また、平松研教授が連合農学研究科長、山

田邦夫教授が副学部長、山本朱美教授が学部長補佐として学部、研究科の運営に尽力されております。昨年度終了時に

は、多井紫織さん（研究科長表彰）、高崎日向子さん（学部長表彰）、野間明加里さん（同窓会長表彰）、山口真奈さん（同窓会長表彰）が、学業優秀者として表彰されました。また、研究活動に関しては、多くの学生さんが、学会発表に対する表彰を各学会から受けました。その一方で、本年は多くの先生が、研究に基づく表彰を受け、また国際的なトップジャーナルに研究成果を公表しました。田中貴准教授（作物学会奨励賞）、山本義治教授（Cell Report、Nature Communications）、小山博之教授（Trends in Plant Science）などがその一例です。教員一同、

脱炭素社会への転換や、SDGsの達成などの社会課題の解決に、教育・研究の両面で貢献していく所存です。

（小山博之）

◆共同獣医学科

ロシアによるウクライナ軍事侵攻を背景にエネルギーや食料価格の高騰が続き、加えて円安の進行による輸入物価の上昇は、私たちの生活に大きな影響を及ぼしています。新型コロナウイルス感染症は今なお高い水準で推移しており、各務同窓会の皆様におかれましてはご苦勞も多いことと拝察致します。

共同獣医学科の現況をお知らせ致します。本学科は10年目に入り、今年度は68名「岐阜大学31名（男性11名、女性20名）、鳥取大学37名（男性13名、女性24名）」の新生を迎えました。出身地は愛知県12名、大阪府8名、長野県、京都府、兵庫県各4名などであり、今年度も愛知県からの入学者が多いのが特徴です。

また、3月には第4期生67名（岐阜大学35名、鳥取大学32名）が卒業しました。2月に実施された獣医師国家試験では、岐阜大学の現役受験生35名のうち34名が合格し（合格率97.1%）、鳥取大学は32名のうち31名が合

各務同窓会報

格しました(同96.9%)。岐阜大学では今回、2年ぶりに全国第1位の合格率となり、鳥取大学は第2位でした。新たに獣医師となった65名が、それぞれの分野で活躍されることを期待しております。

教員人事では、令和4年4月1日付けで獣医外科学研究室の宮脇慎吾先生が准教授に昇任しました。一方、獣医臨床放射線学研究室の神志那弘明准教授は令和4年3月末に退職し、4月から京都府にある民間の二次診療施設の長として活躍しております。

共同獣医学科では、国際通用性のある社会性豊かな獣医師養成を目指して、教育研究環境のさらなる改善充実を目指して参ります。今年度もご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。末筆ながら同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈り致します。

(共同獣医学科長 鬼頭克也)

◆◆連合農学研究科

各務同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

岐阜大学大学院連合農学研究科は2021年(令和3年)4月をもって創設30周年を迎えました。これまで本研究科を支えていただきました岐阜大学、静岡大学、そしてかつての構成校である信州大学の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、本研究科では、事務員の今井健太郎氏が病院事務室に異動となり、後任に高橋洋子氏を事務主任として迎えました。

また、事務補佐員の栗本薫乃氏が産休に入るため、国際関係の事務補佐員として、6月より新たに櫻井菜保美氏を迎えました。その他、中野浩平研究科長補佐(専任教員)、矢部富雄研究科長補佐(国際担当)、千原英司特任教授(キャリアパスコーディネーター)、野村友里連合大学院事務室長、青木孝一郎係長、および、高橋敦子、戸本悦子、伊藤輝美の各氏は変わらず研究科の管理

運営に努めております。研究科の重要事項を決定する代議員会には、昨年度に引き続き、今村彰宏先生、上野義仁先生、中川智行先生、西村眞一先生、山本朱美先生にご参画いただいております。

昨年度の学位授与者は課程博士15名、論文博士2名であり、また、入学生については、本年度4月のみで20名となっており、例年よりやや人数が多くなっております。また、在籍者は総数104名で、うち54名が外国人留学生、23名が社会人学生となっております。

5月の入国管理の緩和に伴い、渡日を見合わせていた学生もようやく岐阜、あるいは静岡に迎え受けることができ、研究科の混乱も収束に向かいつつあります。一方で、国際ワークショップや公開講座などの中断されてきた事業を再開させなくてはならず、こちらは勘を取り戻すのにしばらくの時間がかかりそうです。

本年度も本研究科が国内外における農学の拠点となることを目標に努めて参りたいと思つて

おりますので、引き続きご指導賜りますようお願い申し上げます。末筆になりますが、同窓会会員諸氏のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

(平松 研)

◆◆連合獣医研究科

各務同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

令和3年度の本研究科の学位授与者数は、課程博士16名、論文博士2名の計18名でした。平成30年度に最後に入学した学生の標準修業年限を迎えましたが、本研究科には、現在10名(うち留学生0名)の学生が在籍しております。この在籍する全ての学生が無事修了するまで、基幹校として社会に貢献する人材育成に務めてまいります。

在学する学生の多くは社会人学生で、仕事と学業を両立させながら学位取得を目指しています。その中には新型コロナウィルスの影響から、仕事に支障が

生じ経済的な問題で学業に専念できず、遅延した学生もいました。学位の質が落ちることのないように本研究科の教職員が総力を挙げて取り組んでいるところです。

本研究科の在学生も、新大学院である共同獣医研究科の学生とともに、国内外の獣医学を発展させることを目的に研究活動に励んでおります。

今後ともご支援・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(浅井鉄夫)

◆◆共同獣医研究科

各務同窓会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成31年4月に開設された共同獣医研究科が完成年度を迎えますので、標準年限で修了する1期生が博士号を取得することになります。優秀な成果をあげた場合には3年間で修了することがありますので、すでに1名の短縮修了者が学位を取得しています。現在、21名の大学院

各務同窓会報

生が在籍しており、日本人学生が16名、留学生が5名です。日本人学生のうち8名は社会人学生であり、仕事をやりながら研究活動にも取り組んでいます。

共同大学院のパートナーは鳥取大学ですが、両大学の大学院生が一堂に会して論議することのできるプログラムが、コロナ禍にあつて実施できない状況が続いています。人脈を形成することも博士課程の学生にとつて重要なことですので、自由に行き来して対面での討論が可能になるよう祈るばかりです。

末筆ながら、同窓生の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

(志水泰武)

◆附属岐阜フィールド科学 教育研究センター

各務同窓会会員の皆様方におかれましてはご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

また平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。現在、新型コロナウイルス感染防止に

留意したうえで対面授業が実施されています。しかしながら多人数での宿泊実習だけはまだ再開できておりません。柳戸農場では産業動物臨床実習施設整備事業の新畜舎およびスマート農業取組事業のスマート温室が順調に運用開始され、新たな教育研究環境として整備、充実されました。美濃加茂農場では飛騨牛繁殖研修事業が3年目を迎える今年3月1期生3名全員が自営就農し喜ばしい成果をあげた一方で、現在の研修生は2期生2名、3期生0名の状況でございます。持続可能な事業として地域に根づくことを目指し課題解決に取り組んでおります。位山演習林では所在地の下呂市との地域連携および教育研究活動の強化を目指して活発な議論がなされており、今後の進展が期待されます。当センターの発展に向け、今後とも皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

(大場恵典)

◆動物病院

本年度より渡邊が動物病院院長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

動物病院の現況についてお知らせいたします。まずは人事ですが、神経科の診療科長を担当されておりました神志那弘明准教授が3月いっばいで退職し、Kyoto AR 動物高度医療センターのセンター長に就任いたしました。動物病院としては神志那ブランドを失い、かなりの痛手となりますが、一方で神志那チルドレンの常勤獣医師たちが活躍し、神経科を盛り上げております。さらに整形外科の診療科長を担当されておりました岩田宗峻助教が7月いっばいで東京医科歯科大学に准教授として栄転されました。岩田先生は整形外科の診療科を立ち上げ、外科分野のレベルアップに貢献していただきました。動物病院として残念でありませんが、神志那先生、岩田先生のこれからの活躍をお祈りしております。

動物病院の収入は、一昨年度

が国立大学の附属動物病院としては東大、北大に次ぎ、3番目の収入となり、一昨年度の5.3億円から昨年度の5.7億円と、さらに順調な増収となっております。

今年度、新リニアック(放射線治療機)の導入を目的とした放射線治療室の工事が始まりました。来年の9月稼働に向けて動物看護師も新たに6名採用し、総勢21名の看護師が新たな診療体制に対応すべく活躍しております。また、来年度、動物看護師は愛玩動物看護師として国家資格化されます。現在、動物看護師は休日返上で勉強会を開催し、全員合格を目標に頑張っております。動物病院としても全面的に協力していきます。

今後動物病院は、二次診療施設としての高度な診療体制を維持し、東海地区の獣医療の発展に貢献するよう努力してまいりますので、動物病院の運営にご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

(渡邊一弘)

◆野生動物管理学 研究センター

応用生物科学部附属野生動物管理学研究センター(以下、研究センター)は、岐阜大学における野生動物研究の中核を担う組織として活動しています。これまでの実績が高く評価されたこともあり、2022年4月1日、岐阜県との共同組織として「岐阜県野生動物管理推進センター(推進センター)」が発足し、学内に設置されました。長年、研究センター長を務めた鈴木正嗣教授が推進センター長に就任したことを受け、私が研究センター長を拝命いたしました。どうぞよろしく願っています。

両センターは、主たる活動内容は異なるものの、互いの補完的連携を前提として設置されています。具体的には、推進センターが野生動物管理の実践や地域貢献に主眼を置くのに対し、研究センターは野生動物管理に関する分野横断的な研究を推進しつつ、推進センターが実施する研究・教育・人材育成を支援

各務同窓会報

◆共同獣医学教育開発
推進センター

する役割を担っています。今後は、推進センターとの連携を密接に取りながら、研究センターの特徴を活かした活動を続けていきたいと考えています。

(伊藤直人)

各務同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成25(2013)年度に鳥取大学とともに共同獣医学科が設置され、岐阜大学と鳥取大学それぞれに「共同獣医学教育開発推進センター(以下、センター)」が組織されました。センターは、遠隔講義や教員移動・学生移動などの共同教育を有効かつ効率的に実施するための教育内容や教育方法を改善、開発、調整し、共同獣医学教育に関する情報を発信することで、獣医学教育の質の向上、発展に寄与することを目的としています。センターは、「共同教育マネージメント部門」と「実践的共同教

育推進部門」の2つの部門に分かれています。

私(食品・環境衛生学)と伊藤直人教授(人獣共通感染症学)は「共同教育マネージメント部門」として、以下を担当しています。

- ・ 共同教育全般の調整・管理
- ・ 共同教育ポリシーの進化推進
- ・ 初年次教育推進
- ・ 教育の検証・改善
- ・ 共同教育の調査・開発・成果公表

酒井洋樹教授(獣医病理学)と西飯直仁准教授(獣医内科学)は「実践的共同教育推進部門」として、以下を担当しています。

- ・ 臨床共同教育の調整・管理
- ・ 基礎応用共同教育の調整・管理
- ・ アドバンス臨床教育の開発
- ・ アドバンス基礎・応用教育の開発

令和2(2020)年度からスタートした新しいカリキュラムが3年生まで進行しています。コロナ禍により実施できなかった教員移動・学生移動型の講義・実習を、今年度は一部で3年ぶりに実施しています。まだまだオンラインデマンド講義など急遽対応

が必要な状況があると予想されますが、両大学のセンターで柔軟に調整、対応し、共同教育をいかして学生への教育の質の向上に努めてまいります。

今後とも同窓会の皆様のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。

(猪島康雄)

◆家畜衛生地域連携
教育研究センター
(GeFAH、ジーフア)

各務同窓会の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

GeFAHは、2016年に発足して以来、近隣の自治体や畜産関連事業者と様々な課題に取り組んできました。これまでの取り組みは、牛伝染性リンパ腫(旧牛白血病)、豚熱(旧豚コレラ)、トキソプラズマ病、食中毒関連など多岐にわたっています。その中、大学院で学んでいた2名の地方自治体職員の方が、GeFAHの構成教員の下で2022年3月に学位(獣医学博士)を取得

しました。研究テーマは、と場における枝肉の温度管理に関するものとミツバチのウイルス病に関するものです。本会報をご覧になっている皆様の中で関心をお持ちの方は、共同研究を含めて、ご相談いただければと存じます。

畜産や家畜衛生を取り巻く情勢は大きく変わってきました。動物福祉や公衆衛生への意識や直面する家畜伝染病の問題など枚挙にいとまがありません。また、家畜の感染症に対するアプローチも様々な手法が開発され

てきましたが、以前は研究室レベルの技術が畜産現場で広く利用されるようになっていました。そのような状況から、新しい技術や考え方の情報提供を充実させる必要性を感じ、卒後教育に関する取り組みを検討することを予定しております。この点につきましても、ご要望等がありましたらご連絡いただければ幸いです。

今後ともGeFAHの運営に関しまして、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

(浅井鉄夫)



GeFAH
Education and Research Center
for Food Animal Health,
Gifu University



GeFAH
Education and Research Center
for Food Animal Health,
Gifu University

GeFAHの2種類のロゴマーク

退職者記念事業の報告

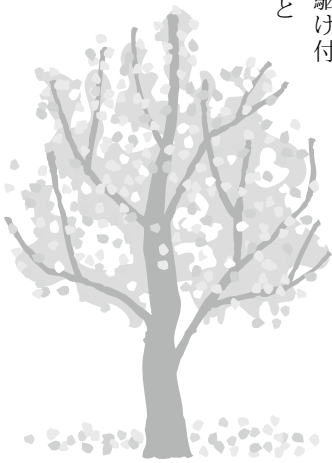
生産環境科学課程環境生態科学コースの向井譲教授は、令和4年3月31日をもって定年退職されました。

先生は、平成16年3月に着任されて以来、本学の研究教育および学部運営に尽力され、その多大な功績により本学名誉教授の称号が授与されました。

退職記念事業として、令和4年3月2日（水）13時より応用生物科学部101多目的ホールにおいて「樹木の交配に関する2、3の研究」と題する最終講義が行われました。

在学学生や教職員はもとより、多数の卒業生や森林・林業関係者の皆様が駆け付け、盛大な最終講義となりました。

新型コロナウイルス感染症対策のため茶話会は開催されませんでした。代わりに最終講義



（片畑伸一郎）

感謝

福士 秀人



私が岐阜大学農学部獣医学科獣医微生物学研究室助手として赴任してから、38年が経ち、来年3月末に定年退職することとなりました。在職中はたくさんの教員・事務職員・学生さんにお世話になりました。心より感謝申し上げます。

着任した当時、農学部は各務原市にあり、その年の秋に柳戸キャンパスに移ることになっていました。プレハブの獣医学科の建物の廊下の一角に置かれた台が私の机でした。右も左もわからず、礼儀作法もなっておらず、教員とは言えないような私を先輩教員の方々に日々、指導していただき、今日、それなりに教員として務めを果たせるようになりました。各務原キャンパスは数ヶ月でしたが、自然が豊かで庭園も綺麗だったことが思い出されます。

退職予定者のあいさつ

移転したばかりの柳戸キャンパスは、建物は新しいものの、まだ木々も成長しておらず、これからどうなるのだろうと思っておりました。今は、メタセコイアの巨木が聳え立ち、自然豊かなキャンパスとなったことは嬉しいことです。

博士課程を中退し、赴任しましたので、当面の課題は博士号を得ることでした。学生さんたちと一緒に夜遅くまで実験しておりました。当初は研究室でSPFの鶏を維持していました。毎日、朝の1時間は鶏の世話で終わっていたのですが、数年後に鶏の自家飼育はしなくても良いことになり、ホッとしたことを覚えています。そうこうしているうちに、実験結果もできるようになり、博士号を得ることができました。博士号はオウム病クラミジアの研究で、多くの学生さんたちと一緒に研究ができたおかげです。

在外研究員としてアメリカに10ヶ月でしたが、滞在することができました。帰国後は病理学研究室との共同で様々な動物の感染症を研究するようにになりました。この研究が、現在も続けているウマヘルペスウイルスの研究へと発展しました。この研究においても、多くの学生さんたちと

一緒に研究できたことは大いなる喜びと言えます。

あわせて、獣医学科全体の取り組みとして始められた中部山岳地帯における野生動物の研究にも加わり、私自身は山開き前の薬師岳に登り、雷鳥調査の皆様と雷鳥のフンを必死に集めたことも良い思い出です。この研究を契機として、野生動物が保有する薬剤耐性菌の研究を行うようになり、アフリカでの調査研究に発展し、連合獣医学研究科の先生方とともに材料採取ができました。

研究のみならず、小見山学部長のもとで、学部の運営にも関わることもできました。ともすれば暴走してしまう私を上手に使っていただいた小見山先生には感謝の言葉しかありません。理事・副学長として森脇先生にお仕えしたさいには、応用生物科学部が岐阜大学の中でいかに大きな存在感を持っているかを実感しました。教育でも、研究でも岐阜大学で先頭を進んでおり、この成果をできるだけ全学に反映させたいと思います。ながら、仕事をしておりました。

学部にも復帰してからは、応用生物科学部建物の改装工事に遭遇し、またしても引越がありました。岐阜県中央家畜保健衛生所の3階の仮住まいも、楽しい日々でした。改装後は、研究室が2階から5階に移ったこともあり、気持ちも新たに教育と研究に没頭してきます。

退職者記念事業のお知らせ

福士秀人教授の

定年退職のお知らせ

共同獣医学科 獣医微生物学
研究室の福士秀人教授は令和5
年3月31日をもって定年退職さ
れます。

先生は、1982年に助手
として着任され、2003年に
教授に昇任されました。岐阜大
学に着任されて以来、オウム病
クラミジアの研究を精力的に取
り組まれてこられ、1992年
には、日本獣医学会賞「オウ
ム病クラミジアの免疫化学的お
よび分子遺伝学的解析と新分
類」を受賞されています。また、
1993年には動物園で発生し
た原因不明の集団脳炎から、新

こうして振り返ってみますと、農

運なことでした。

最後にになりましたが、応用生物科
学部並びに各務同窓会の皆様の益々
のご発展とご健勝を心からお祈り申
し上げ、退職の挨拶とさせていただきます。これまで、ありがとうございました。

しいウマヘルペスウイルスを分離
され、ウイルス学にも大きな貢
献を果たされております。また、
教育活動では、多くの学生に慕
われ、輩出された卒業生たちは
様々な分野で活躍されております。

さらに、応用生物科学部
副学部長、教養教育推進センタ
ー長、教育推進学生支援機構副機
構長、理事としても、岐阜大学
の発展に大きく貢献されてきま
した。

先生のご退職にあたり、令和
5年3月3日（金）13時より、
全学共通教育棟101番教室に
て、最終講義を開催します。また、
講義の後、懇親会を開催する予
定です。

（中川敬介）

教員の異動

定年退職

R4・3・31 生産環境科学課程

向井 譲

山本 謙也

退職

R4・3・31

神志那 弘明

昇任

R4・4・1 生産環境科学課程 環境生態科学 教授

大西 健夫

生産環境科学課程 環境生態科学 准教授から

R4・4・1 生産環境科学課程 応用植物科学 准教授

田中 貴

生産環境科学課程 応用植物科学 助教

R4・4・1 生産環境科学課程 環境生態科学 准教授

広田 勲

生産環境科学課程 環境生態科学 助教

R4・4・1 共同獣医学科 獣医外科学 准教授

宮脇 慎吾

共同獣医学科 獣医外科学 助教から

教員・旧教員の受賞

矢部富雄	教授	日本食物繊維学会賞	令和3年11月6日
楠田哲士	准教授	GIFU TECH PLAN GRAND PRIX OKB賞	令和3年11月20日
田中 貴	助教	第26回日本作物学会研究奨励賞	令和4年3月27日
西津貴久	教授、勝野那嘉子	准教授、今泉鉄平	助教
FOOMA JAPAN 2022（国際食品工業展）FOOMA AP賞（来場者評価部門）			令和4年6月10日
松村秀一	教授、石黒直隆	名誉教授	
2022年度 Zoological Science Award			令和4年6月4日

同窓会長賞受賞者

同窓会長賞は、毎年1回優秀な学生の日頃の努力を顕彰する目的で平成19年度に設立されました。

令和3年度も各課程および専攻からの推薦を受けて、応用生物科学研究科の学生の中から次の受賞者が決定されました。受賞者には心よりお祝い申し上げます。また、なお一層のご活躍を期待いたします。

■受賞者（敬称略）

応用生命科学課程 宇佐美 正成
生産環境科学課程 山口 真奈
共同獣医学科 西村 風哉
生命科学・化学専攻 磯貝 樹
生物生産環境科学専攻 野間 明加里

宇佐美 正成

この度は同窓会長賞という榮譽ある賞をいただき、大変光栄に存じます。講義や研究活動を通じて熱心な御指導を賜りました先生方や先輩方、共に勉学に励んだ同級生、そして支えてくださった両親に心より感謝申し上げます。

卒業後は本学修士課程に進学いたしました。これまでの成果をまとめて高分子学会で発表も出来ました。修士課程での二年間の研究活動を振り返り、今後はとも邁進して参りたいと思います。

山口 真奈

この度は同窓会長賞をいただき誠にありがとうございます。私は3年次編入したので、入学

医師であるという事実は大きく、専門家としての自覚を持つて学び、精進していかねばならないと思っております。

獣医師として社会貢献できるように、日々努めてまいりたいと思います。

磯貝 樹

同窓会長賞という榮譽ある賞をいただき誠に光栄に思います。ご指導いただいた先生方、支えてくれた家族、ともに切磋琢磨した友人たちに感謝申し上げます。

修士課程二年間は、コロナ禍ということで学外の交流が妨げられた反面、多くの時間を研究や勉学に勤しむことができました。卒業後は博士課程へ進学しましたが、この素晴らしい賞を励みに、培った研究力を生かして社会に貢献する研究に尽力したいと思います。

野間 明加里

この度は同窓会長賞という榮譽ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。熱心にご指導いただいた先生方や先輩方、苦業を共にした同期、生活を支えてくれた家族に心より感謝申し上げます。

大学・大学院の6年間で価値観が変化し、現在は入学当初は思ってもいなかった分野で仕事に励んでおります。自身の未熟を痛感する毎日ではありますが、岐阜大学で学び得たものを活かし、一人前の技術者となるべく日々努めて参ります。



吉寄基金

キシランの有効活用に向けた キシラン合成におけるキシ ラン主鎖修飾機構の解明

応用生命科学課程 鈴木 史朗

2020年2月に岐阜大学に着任して
早々、新型コロナウイルスが日本で蔓延
し、その感染状況に翻弄された2年間に
過ぎました。本学勤務3年目に入り、
お陰様でようやく慣れ、教育・研究・学
部運営の仕事に集中できるようになりま
した。

現在、私たちの研究室では、植物細胞
壁の主成分のキシランやリグニンの化学
構造解析と生合成機構の解明、それらの
成分利用と植物代謝工学を目指し、研究
を進めています。この度、吉寄基金のご
支援により、これらの研究を行うのに必
須の細胞培養装置を購入しました。

キシランやリグニンは、地上で最も賦
存量および生産量の多いバイオマス成分
で、これらの成分の利活用は、2050
年の日本の脱炭素社会の達成に向け、極
めて重要になっています。

ご支援頂きましたお陰で、キシラン生

合成に関わる新規酵素の組換えタンパク
質発現に成功し、現在、酵素の機能解析
に取り組んでいるところです。今後、さ
ならぬ知見を集め、成分利用のしやすい
バイオマス植物の作出に向けて、引き続
き研究を進めて参ります。

最後になりましたが、本研究を実施す
るにあたり多大なご支援を賜りました吉
寄清己様およびご遺族様に心より感謝申
し上げます。

新規フラボノイドプロローブの 合成とメラノーマ細胞内標的 タンパク質の同定

応用生命科学課程

天然物利用化学研究室

山内 恒生

フラボノイドは野菜やフルーツ、樹木
や薬用植物など植物中に豊富に含まれる
ポリフェノールです。抗癌活性や抗炎症
活性、肥満抑制や抗骨粗鬆症など、多岐
に渡るフラボノイドの生物活性の報告が
近年増加しており、その作用メカニズム
の解明が望まれています。そのためには、
フラボノイドが直接作用する生体分子で
ある標的タンパク質の探索が必要です。

標的タンパク質を単離するためのフラボ
ノイドプロローブの合成と、これを用いて
標的タンパク質の同定を試みました。

吉寄基金のご支援により、5種の新た
なフラボノイドプロローブの合成に成功致
しました。これを用いて3種の標的タン

パク質の同定を達成致しました。今後こ
れらの研究成果を基にしてフラボノイド
の作用機序の解明に繋げたいと考えてお
ります。

最後になりましたが、本研究を実施す
るにあたり、多大なご支援を賜りました
吉寄清己様およびご遺族様に深く感謝し、
厚く御礼申し上げます。

C19吉寄清己研究支援寄附金 の令和4年度受領者選考に ついて

石田 秀治

昭和19年9月に農芸化学科を卒業され
た吉寄清己様の篤志により、平成19年度
から「吉寄清己研究支援寄附金」とし
て、応用生命科学課程教員の研究を支援
して頂いています。ご遺族様から、ご逝
去後もご援助を継続して頂けるという吉
寄様のご遺志を伺い、本年度も本研究支
援寄附金の受領者の選考を進めさせて頂
いています。本年度は、本会報の発行時
期が早いため、現在選考中です。次年度
合わせて報告いたします。但し、別件で
ご報告があります。故鈴木徹先生が準備
していた学術論文2報の投稿発表に本基
金の一部を使用させて頂きました。無事
に受理され、謝辞の欄に The publication
of the manuscript was supported by Gifu
University Yoshizaki Research Support
Fund (YRSF).と記載させて頂きました。

【会員の受賞】

鈴木義弘、鈴木（旧姓 勝山）美有紀 夫妻

農林水産大臣賞

（第23回全国果樹技術・経営コンクール）令和4年3月1日

支部便り

岐阜大学各務同窓会

岐阜支部総会報告

岐阜支部 支部長

河原 洋之（P大13）

この間2年間はコロナの影響で書面決議の総会になっていました。今年こそはとコロナの状況を見ていましたが、少し落ち着いていたので7月10日（日）に総会を予定しました。そうしていたら、コロナの第7波の感染拡大でどうしようか迷いましたが、思い切つて開催しました。コロナの感染拡大や参院選の投票日と重なったことで、出席者は18名と少なかつたのですが、何とか総会と懇親会を長良川河畔の石金で開催することができました。総会は、来賓としてご臨席賜った各務同窓会会長の柵木会長のあいさつ、石田先生の大学の近況報告のあと議案審議にはいりました。議案はすべて可決され、支部の活性化については、女性会員の拡大とか、同窓会会員の専門的な知見を集めての社会発信の必要性などの意見が出されました。また、各務同窓会活動活性化事業を活用して、より多くの会員に興味や近況など身近な話題を総会に報告してもらうことや、親睦クラブの創設

大学の最新の情報を印刷物にして総会時に配布すること、支部内活動等報告チラシの作成、またそのチラシを県庁支部や市役所支部等で配布してもらうことが決定されました。

総会の後半は、今年から会員の報告を行うことにしました。A大25の平工孝義さんは現在揖斐川町で農業普及の仕事に携わっており、「揖斐川町の伝統野菜」について報告いただきました。徳山なんばの話から、令和3年に飛騨美濃伝統野菜に認証された「こんぶり」「春日きゅうり」「春日豆」の説明がありました。F大34の土田敏行さんからは、「最近の農業」というテーマで、自らがかわつていっている「農事組合法人おが」の活動紹介がありました。法人が栽培している水稲、そば、小麦、エゴマ、栗等の説明、スマート農業のメリット・デメリット、中山間地域の課題、共同研究・ぎふ清流GAP・働き方改革等の新しい取り組みの説明がありました。土田さんは、最後に「この会が農業や生活について有意義な情報交換の場になるといいと思っています。」と報告を閉めました。これは初めての企画でしたが、大変興味深い内容でしたので、今後も総会時に会員報告をしてもらうことにしました。

懇親会は大変和気あいあいと行われ、最後は西脇さん、溝口さん、高橋さんの長老3氏の締めでお開きとなりました。総会・懇親会が開催できて本当に良かったと思っています。

「2023・創立記念の年へ」

とともに事業の成功を願います

岐阜大学各務同窓会広島県支部 支部長 村田 憲治（E大29）



皆様、お元気ですか。ここ「神の宿る島」と云われる広島県廿日市市宮島。すでに訪れた方もいらっしゃるかもしれません。現在、大修復中の厳島神社の大鳥居は、8代目にあたり、いよいよ年内にもお目見えだそうです。

宮島栈橋から南西約1.3キロメートルの大元神社では、毎年の恒例行事、御弓神事が執り行われます。厳島神社より古い地主神とされ、元宮（旧本殿）があつた場所ということから大元に。3年前の1月20日、支部行事の有志で、百手祭という奇祭に参加しました。事前に御神矢を買い、私の番号札は、20番です。的に放つた破魔矢は、4本。そわそわしていると抽選が始まり、なんと最初に「番号20番」と大声で叫ばれ、大当たり。後方にいた私は、大慌てで最前へ。大勢の参拝者の目の前で、神官から破魔矢を賜りました。この時の驚きと感動は、今も忘れられません。参加した同窓も一緒に喜んでくれて、ハッピーな1年の始まりとなりました。

このあたりで、当支部への新規会員の皆様へ向けて自己紹介します。支部結成は、1969年。第8代になります。趣味は、ウォーキング、読書。中学・高校・大学と軟式庭球部所属、前衛でした。一際感慨深いのは、近年、目が離せない東アジアの地域（マニラ、香港、重慶など）への海外派遣交流事業です。学生時代は、周囲の理解を得、「若人の船」約420名の団員と共に東京晴海埠頭から客船につぼん丸に乗船し、洋上慰霊祭、現地青年団体との交流プログラムなどに参加しました。また、公務員時代は、職命を得、1997年当時、現地の自治体への首長表敬訪問、商工業視察などに関わらせていただきました。座右の銘は、「飲水思源」。アフターコロナ、意見交換を楽しみにしています。

さて、いよいよ来年は、創立100周年記念の年。（大学の起源から150周年）これまで同窓会組織を堅守し、発展させてこられた本部・支部の歴代役職員の皆様、この記念事業に関わる執行部の方々のご苦勞に対し、深く敬意を表するとともに事業の成功を心から願います。

計 報

昨年の会報102号以後、令和4年6月までに御逝去が確認された方々は、次のとおりです。
謹んで哀悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

農 学 科	
A16	山崎 新右衛門
A22	池 山 一 男
A23	村 田 俊 一
A24	都 築 仁
A大2	戸 崎 信 一
A大4	平 井 潔
A大4	前 田 芳 昭
A大6	齋 藤 義 一
A大6	須 田 量 夫
A大8	三 宅 恒 久
A大11	井 上 敦 夫
林 学 科	
F19	宇 田 定 統
F20	安 達 俊 弘
F20	坂 井 建 一
F22	鳥 居 崇
F25	松 岡 亮之助
F大1	甲斐川 誠
F大3	北 村 和 久
F大3	紀 藤 義 弘
F大10	加 藤 伸 行
農芸化学科	
C20	佐 藤 善 信

C20	林 明
C21	宇 野 弘
C21	桜 井 忠一郎
C25	小 田 範 男
C大1	北 村 俊 雄
C大1	渡辺(若松) 平八郎
C大2	平 田 陽太郎
C大3	加 藤 修 一
C大3	近藤(高木) 武
C大5	高 木 和 巳
C大8	大 橋 準 一
C大9	松尾(石川) 真砂子
C大11	牛 田 浩 司
C大11	佐 藤 哲 夫
C大12	大 勢 暢 彦
C大15	安 藤 順 平
C大16	安 藤 忠 明
C大22	木 下 文 男
C大26	鈴 木 昌 二
C大39	鈴 木 智 晴
獣医学科	
V4	飯 塚 庸
V4	殿 村 好 和
V5	中 村 達

V6	有 賀 良 夫
V6	岡 部 欣 一
V7	近 藤 健 雄
V7	服 部 克 己
V8	大 機 隆 夫
V8	畑 守 正 士
V大3	本 田 昌 宏
V大4	玉 田 成 甫
V大6	岡 崎 義 彦
V大6	小 川 進
V大6	堀 内 久 友
V大8	各 務 富 也
V大13	山 田 靖 治
V大21	北 林 榮 宗
V大30	櫻 木 武
農業工学科	
E4	坂 井 博
E6	加藤(蒲) 貢
E6	堀 部 孝 一
E6	山 田 實
E7	今 井 卓 郎
E大3	内 田 日出男
E大4	木 村 鎧 男
E大6	殿 村 惇那成

E大14	塚 本 隆 一
E大22	渡 辺 吉 康
E大30	森 茂 男
総合農学科	
N大4	吉田(浅井) 三郎
N大9	岡 本 紀士生
農村工業実科	
AT1	橋 本 進
AT7	戸 崎 志 朗
AT9	桃 原 春 雄
AT11	高 田 宗 男
農業専修科	
SP4	佐 野 崇
SP19	渡 邊 勝
旧 教 員	
旧教員	稲 垣 幸 男
旧教員	北 澤 馨
旧教員	櫻 井 宏 紀
旧教員	西 村 格
旧教員	原 徹 夫
現 教 員	
現教員	鈴 木 徹

鈴木徹先生を偲んで

鈴木徹先生は、令和四年一月一日にご逝去されました。享年六十三歳でした。

新年早々、突然の訃報に接し、ただただ驚愕するばかりでした。

定年間近のご逝去に、今でも信じられない気持ちです。お母上様のご心痛はいかばかりかと察するに余りあります。

鈴木先生は、名古屋大学農学部農芸化学科をご卒業になり、昭和六十二年四月工業技術院名古屋工業技術試験所に採用され、同年十月微生物工業技術研究所に出向され、応用微生物学の研究に携わられました。名古屋工業技術試験所にお戻りになられてから動物細胞の分泌成分について研究を進めておられました。

鈴木先生は、平成三年四月に生物資源利用学科遺伝子工学研究室に助教として赴任されました。

当時は農芸化学科と生物資源利用学科の学部と大学院の各組織が併存している状況でしたので、教育

研究を進めるにあたり先生はかなりの戸惑われたのではないかと思います。

先生はプロテオーム解析を導入さ

れ、動物細胞培養液中の新規成分について精力的に研究を進めておられました。一方、当時研究室で進めておりました重金属耐性菌とキシラン分解菌に関わる分子遺伝学的研究も、先生のおかげで大きく進展させることができました。深甚の謝意を表するものです。

その後、鈴木先生は、遺伝子実験施設助教、連合農学研究科専任教授、次いで応用生物科学部教授として様々な立場から教育研究に従事されました。この間、先生は全学の研究推進・社会連携機構学術院と教育推進・学生支援機構、高等研究院共用推進支援センター等々を兼務、岐阜大学における教育研究組織の設置と発展にご尽力されてきました。ここ数年、

鈴木先生は教育研究の総仕上げに取り組んでおられましたので、長年の成果を楽しみにしておりましたが、叶わぬこととなってしまいました。

ここに、皆様とともに鈴木徹先生に深謝申し上げ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(河合啓一)

原徹夫先生を偲んで

原徹夫先生が2022年4月29日、77歳で永眠されました。原先生は、1971年11月に、北海道大学より農学部農芸化学科土壌肥料学講座助手として着任され、1983年に助教授、1989年12月より教授を務められ2007年3月に退職されました。その間、1988年には農芸化学科が母体となって改組された生物資源利用学科の植物細胞工学研究室(2004年に改組された応用生物科学部では、生産環境科学課程に所属)を主宰されました。学内では生物資源利用学科長をはじめとする各種委員会委員長を、学外では日本土壌肥料学会中部支部長などを歴任され、農学教育・研究の発展に貢献されました。

原先生は、キャベツの結球生理の栄養学的研究に取り組み、たのち、サフランの組織培養、酸性土壌耐性機構の研究などに取り組まれました。朗らかで、物事に頓着せず、さつそうと過ごす先生はアジア各国を訪ね、そしてアジアの留学生を積極的に受け入れました。フィリピン

国際イネ研究所への研究留学、学術振興会二国間共同研究事業(タイ、チュラロンコン大学)などを通じて、チュラロンコン大学、バングラデシ農業大学などとの共同研究・研究者交流の草分けとなり、1991年の連合農学科研究科の開設直後から都合4名の留学生を受け入れられました。広西大学で長く農学院院长を務められたG教授、バングラデシ農業大学で学部長を務める、Alangir Hossain教授、Zakir Hossain教授など、本学の国際化推進のパートナーとなった先生方が、原先生のお弟子さんにあたります。原先生は、まぎれもなく、現在の応用生物科学部の国際化の土台を築かれた方と言えます。原先生自身が、創立85周年記念誌に書かれた文章には、「博士学生の半分は外国籍を有する留学生であり、この研究分野においては、日常の研究生活そのものが国際交流の一部であったと思われる。」「ポスドク研究者や外国人研究者といわれる共同研究者もこの分野の研究に参画した。この分野で

博士の学位を取得した修了生のほとんどは、研究者として日本だけでなく世界中で活躍している。」とあります。そして、「この研究分野のみが純粋に、集中して、植物の栄養生理および遺伝子を研究する役割を果たしてきた。」と結んでおられます。先生の国際化に対する自負と熱意が感じられる文章です。

原先生は、通常より3年早く退職されました。「動けるうちにいろいろ見て回りたいから」と、最終講義で説明されていました。奥様によれば、「十分にいろいろなことを楽しんだ」とのことです。この清々しい生きざまは、我々がどう生きるべきかを、示してくださったものと思います。最後になりますが、ご冥福をお祈り申し上げます。

(小山博之)



櫻井宏紀先生を偲んで

櫻井宏紀先生は、令和3年6月15日、82歳で逝去されました。

櫻井先生は、昭和15年1月1日に和歌山県に生まれ、昭和38年3月岐阜大学農学部農学科を卒業後、昭和43年3月名古屋大学大学院農学研究科博士課程を単位修得退学後、同年4月1日に和歌山県立医科大学助手として採用されました。その後、名古屋大学医学部助手を経て、昭和51年1月より岐阜大学農学部助手に転任されました。昭和63年11月には岐阜大学農学部教授となり、平成15年3月に定年により岐阜大学を退職するまで昆虫学の教育・研究に邁進されました。

先生のご専門は昆虫生理学であり、その代表的なものは昆虫の卵巣発育の内分泌機構に関する研究です。成虫期に卵形成を行う昆虫種では幼若ホルモン、蛹期に卵形成を行う昆虫種では脱皮ホルモンが卵巣発育を制御していることをイエバエとカイコを材料にして実験的に証明されました。また、テントウムシの休眠はアラタ体の内分分泌性の低下による真の生殖休眠であり、休眠誘起条件として日

長と温度が関与していることを明らかにされております。これらの基礎研究を踏まえて、重要な検疫害虫であるウリミバエ、アリモドキゾウムシ、イモゾウムシについて、放射線不妊化に有効な照射線量と照射時間を明らかにし、我が国の南西諸島におけるこれら害虫種の根絶事業の発展に寄与されました。

先生はお酒を愛されており、お酒が入ると非常ににこやかになり、まわりの学生を褒めまくる人であったことが思い出されます。先生にまつわるエピソードは数多く、その一つが卒業生の皆さんの思い出として胸に深く刻まれていることでしょう。心からご冥福をお祈りいたします。

(土田浩治)



岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念事業

応用生物科学部学部長 光永 徹

岐阜大学応用生物科学部はいよいよ来年をもちまして創立100周年の記念すべき年を迎えます。前身である岐阜高等農林学校が1923年12月に官制公布され、翌24年4月に各務原市に開設されました。1949年に農学部となり長きにわたり各務原キャンパスにありましたが、1982年に岐阜市柳戸に移転し、2004年4月、岐阜大学の法人化と同時に、応用生物科学部として新たな歩みを始め、現在に至っております。このような変遷過程を改めて見直すことで、100年という重みを実感せずにはいられません。これまでの同窓生の皆様のご活躍の賜と深く感謝申し上げる次第です。

記念すべき100年を機に、農学部から応用生物科学部へと歩んできた道を振り返り、さらなる前進と飛躍を期し、同窓生の皆様と慶びを分かち合うため、創立100周年記念事業会を2018年に発足し、記念講演会や記念式典、祝賀会の開催、記念誌の発行など事業内容を検討してまいりました。また、事業を行うためには資金が必要であり、会報等を通じて寄付金をお願いしましたところ、多くの卒業生の皆様方や関係法人等の方々から多くの寄付が寄せられ、心から感謝を申し上げます。引き続き寄付金という形でご支援いただきますよう、心よりお願い申し上げます。

皆様もご存じのように、一昨年から名古屋大学との法人統合がスタートし、東海国立大学機構岐阜大学となりました。両大学の農学教育研究拠点が形成され、それぞれの分野の特色を生かし、お互いの教育を補完することで、強力で魅力的な新しい農学を展開することが期待されています。来年には、さらに進化した農学を会員の皆様にお見せし、農学部・応用生物科学部創立100周年を皆様とお祝いできることを祈念いたします。

最後に、会員各位のより一層の交流が図られ、各地域での同窓会活動が活発になりますことを期待いたします。

■ 100周年記念事業内容 ■

- 開催日 2023年6月3日（土）
 場 所 岐阜大学および岐阜グランドホテル
 内 容 記念講演会（13：00 - 14：00 岐阜大学講堂）
 講演者：土川健之 氏
 （日本中央競馬会第14代理事長）（V大16）
 植樹披露（14：00 - 14：30）
 バス移動
 記念式典（16：00 - 17：45 岐阜グランドホテル）
 祝 賀 会（18：00 - 20：00 岐阜グランドホテル）
 ＊参加を希望される方は別添の用紙により申し込みをお願いします。
 ＊感染防止対策のため参加人数を制限します。申し込みが制限人数を超える場合は申し込み先着順とさせていただきます。
 ＊新型コロナウイルス感染症の感染状況により事業内容を変更する場合があります。

■ 寄 附 ■

記念事業を行うためには少なからぬ費用が必要であり、皆様からの寄附に依存しなければなりません。何卒、諸事情ご賢察いただき温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。詳細は別添用紙に記載しておりますのでご覧ください。

また、あわせて法人の方々には協賛もお願いしております。協賛いただきました方には記念式典で配布する資料に広告を掲載いたします。応用生物科学部各務同窓会のHPにある「広告掲載のご案内」をご覧ください。

皆様のご支援を賜りますよう、発起人一同心よりお願い申し上げます。

なお、寄附金に余剰が生じた場合は応用生物科学部の教育・研究活動の支援金として活用させていただきます。

■ 各務同窓会活動活性化事業 ■

★ロゴマーク



★キャッチフレーズ 「100年の伝統 清流のごとく さらに未来へ」

100周年を契機に、各支部での活動を活性化するための助成事業を創設しました。昨年、各支部事務局に各務同窓会活動活性化事業助成金交付要項を送付しておりますので、積極的な事業の活用をお願いします。

〈支部への助成〉

令和4年1月から令和5年12月の間に下記の取り組みを行う支部に助成します。

- ・新規支部会員を増加させるための取り組みを行う支部
- ・支部開催行事へ参加者を増やすための取り組みを行う支部

- ・100周年記念式典開催に合わせて岐阜県内で会員交流会などを開催する支部 等

〈クラス・研究室・クラブ等OB会への助成〉

令和4年1月～令和5年12月の間に開催するクラス・研究室・クラブ等の会合（参加者15名以上）において、支部活動の紹介と加入案内を行ったOB・OG会に助成します。助成を希望されるクラス・研究室・クラブ等OB会の代表者に助成金交付要領を送付しますので同窓会事務局まで連絡をお願いします。

あとがき

皆様には、日頃から各務同窓会の活動にご支援を頂きまして有難うございます。本年度の各務同窓会報は、来年6月の100周年記念事業を控えて、例年より2ヶ月ほど早い発行となります。記念事業への皆様のお力添えを宜しくお願い致します。

まず、皆様方に同窓会からのお知らせがあります。応用生物科学部の大規模改修に伴って、同窓会書庫が整備され、これまで各研究室に個別に保管されていたことが多かった卒業論文や修士論文、博士論文が同窓会書庫に集約されました。現在の組織(2課程5コース)に沿って整理されていますので、皆様の卒論や修論をお手に取って頂けることが容易になりました。ご希望があれば、まずは同窓会事務局にお尋ねください。

また、大規模改修がこの6月に完了しました。振り返れば昭和58年の夏に各務原那加キャンパスから現柳戸のキャンパスに移転してから、この夏で40年になりました。この改修で40年前のピカピカに戻

りましたので、お時間がありましたら、是非、大学にお立ち寄りください。

現時点(6月30日)で、日本におけるコロナ感染者数は着実に減少傾向にあり、国や地方自治体、あるいは各職場での規制が緩和されつつあります。このウィズコロナの時にあって、今、我々に求められているのは、必要なものと不要なものを選択であると思います。大学で言えば、感染防止対策をとりながらも、まず講義や実験実習が、従来通り実施されるようになりました。一方、部活動などは一歩遅れて制限が緩和されつつあります。また、同窓会の代表委員会については、今年度は総会のみ開催され、懇親会(交流会)は残念ながら開催できませんでした。

このような状況の中で、来年6月の100周年記念事業について、何を実施すべきか、どこまで実施できるか、試行錯誤しながら準備を進めています。是非、皆様の忌憚のないご意見、前向きなご提言を頂けましたら幸いです。宜しくお願い申し上げます。



寄附金のお願いについて



平成20年から、始めました寄附金制度は趣意書にもありますように継続していきますので、本年度もご協力の程よろしくお願いいたします。

詳細は同封の「応用生物科学部への寄附金拠出のお願い」及び「趣意書」をご覧ください。

お申込みいただきました1ヶ月程あとに、岐阜大学(研究推進部)より、振込用紙を送付いたしますので、ご入金いただきますようお願いいたします。

申込書の記入方法

*申込書に必要事項をご記入の上、下記の住所へお送りください。

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
岐阜大学応用生物科学部学務係気付
岐阜大学各務同窓会事務局

第103号

令和4年9月30日

岐阜大学各務同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
TEL (058) 293-3411 FAX (058) 293-2841
振替 00820-9-12742
<http://www.abios.gifu-u.ac.jp/kagami/>
e-mail ob-abs@gifu-u.ac.jp

詳しくはこちらを確認してください。

【申込書】

別紙様式1号 (第3条関係)

国立大学法人東海国立大学機構 機構長 殿

寄附者
住所 〒 -
フリガナ
氏名 印

金額を記入してください。

備考欄も記入してください。

寄附金額	金	円
寄附目的 (該当するものを左側に○をしてください。)	☐ 学術研究助成 ☐ 学生(教育)支援 部局名: ☐ 大学(部局)支援 部局名: 岐阜大学各務同窓会教育研究支援基金 ☐ その他(右に具体的に記入ください。) 部局名:	研究担当者氏名又は 学科・講座名など 研究課題名 (ある場合)
備考	についてご記入ください。 卒 科 卒 回(卒年) 第 回(昭和・平成・令和 年 卒・修) 同窓会会報への氏名掲載を希望されない場合はチェックをお願いします。	

注) 備考欄には、条件(簡単な研究報告が必要など)、分割納付の必要などがあれば記入してください。
2. 研究助成金の場合、決定通知等を添付してください。

納入依頼書
送付先住所:
送付先情報
(企業、団体などの場合)
担当者名:
担当者名:
電話番号・E-mail: